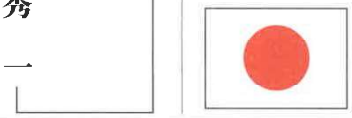
ぎふけん
自動車会議所だより

発行所
一般社団法人
岐阜県自動車会議所
岐阜市日置江2648番地の2
電話（058）279-3701
毎月20日発行

賀正
2024



新年のご挨拶

年頭の辞

中部運輸局岐阜運輸支局長　田中秀一

新年明けましておめでとうございます。

令和６年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

交通及び観光関連の事業に従事される皆様におかれましては、日々、安全で安定したサービスの提供に努めていただいており、心より感謝申し上げます。

これまでの新型コロナウイルス感染拡大は、観光・交通をはじめ各分野に多大なる影響を与えました。高山・白川郷や下呂温泉をはじめ、著名な観光地を複数抱える岐阜県におきましても、宿泊者数、交通利用者数は厳しい状況が続いておりましたが、新型コロナウイルス感染症の５類移行により、人々の暮らしにも日常が戻ってまいりました。

通勤需要など、決して元通りというわけではありませんが、コロナ禍からの復活に向けて皆様と共に取組を進めてまいりたいと思います。

新たな年を迎え、岐阜運輸支局では以下でご説明する「輸送の安全・安心の確保」、「産業活動に不可欠な物流の効率化・円滑化」、「公共交通の確保・充実による豊かな地域づくりの推進」、「地域経済を支える観光の質的向上」及び「防災・危機管理」の５つを柱として取り組んでまいります。

１．輸送の安全・安心の確保

輸送の安全・安心の確保については、岐阜運輸支局にとって最優先の課題です。

運送事業においては、少子高齢化やコロナ禍による離職等もあり、要員不足は顕著となっており、管理体制や労働環境の悪化も懸念されるところです。

岐阜運輸支局としては、引き続き運輸安全マネジメント評価と監査指導を「車の両輪」として取り組み、監査・指導においては、関係機関と連携しながら効率的に実施することで、事業の安全性を確保してまいります。

自動車の安全対策については、先進運転支援システム等の電子制御技術による先進安全装置搭載車の普及が事故削減に大きな効果があると期待されています。先進安全装置搭載車の検査（車検）では、本年10月開始予定からの車載式故障診断装置を活用した検査（ＯＢＤ検査）の円滑な導入に向け準備を進めてまいります。

自動車の検査・登録分野については、昨年１月から、ＩＣタグが貼り付けられた新たな車検証の交付が開始されました。国から委託を受けた民間車検場（指定自動車整備工場）等が車検証の有効期間を更新できる「記録等事務代行サービス」により、これまでＯＳＳ申請を行ってもなお必要であった運輸支局への来訪が不要となるなど、利便性が向上しました。

今後とも、行政手続きの向上に向けて取り組んでまいります。

２．産業活動に不可欠な物流の効率化・円滑化

トラック運送事業においては、「働き方改革関連法」に基づく年960時間を上限とする時間外労働規制の適用を４月に控え、トラック運転手の労働環境が期待される一方で、担い手の不足から物流の停滞が懸念されています。当地域においても「トラックＧメン」による荷主等への監視体制の強化、物流ＤＸ及びモーダルシフトの支援などの取組を着実に実施し、2024年問題の影響の最小化に注力します。

また、物流の持続性を確保するため、「ホワイト物流」推進運動によりトラック輸送の生産性の向上と物流の効率化を図るとともに、「働きやすい職場認証制度」等の施策により誰でも働きやすい労働環境の実現、安定的な人材の確保を目指して、取組を進めてまいります。

３．公共交通の確保・充実による豊かな地域づくりの推進

誰もが自ら運転しなくても自由な外出・移動が可能で持続可能な社会の実現のため、地域公共交通の役割はより重要になっており、地域の実情に応じた輸送手段の確保は喫緊の課題となっています。そのため、地方公共団体が中心となって、あらゆる輸送手段・手法を柔軟に組み合わせ、まちづくり政策と連携しつつ地域モビリティ全体を再構築する交通政策が不可欠です。

岐阜運輸支局としては、自治体の公共交通計画策定や公共交通会議等を活用して効率的かつ利便性の高い地域公共交通が実現するよう支援してまいります。

また、乗務員不足等に起因する輸送力の上限に対する配慮とともに、社会情勢やライフスタイルの変化に対応し、地域公共交通を持続可能な形で維持するため、自動運転やMaaS等の「交通ＤＸ」、車両の電動化等の「交通ＧＸ」を進めつつ、「官民の共創」、「交通事業者間の共創」、「他分野を含めた共創」の「３つの共創」等を推進し、地域交通を「リ・デザイン」（再構築）していく取組を推進してまいります。

４．地域経済を支える観光の質的向上

岐阜県内の観光関連需要は、コロナ禍により、大幅に減少していましたが、昨年５月から５類に移行され、コロナ禍以前の実績を上回る分野も出てきています。

岐阜運輸支局としても、観光産業の高付加価値化や地域の観光資源の磨き上げを図る取組への支援等を通じ、インバウンド需要回復、国内観光需要の拡大に向けて中部運輸局と連携し取り組んでまいります。

５．防災・危機管理

中部運輸局管内では南海トラフ巨大地震の発生が危惧されていることから、災害発生時に迅速かつ的確に対応できるよう、実践的な防災訓練の実施により、応急時の体制強化に努めるとともに、発災時における速やかな職員派遣や情報収集、代替輸送の確保等、体制整備に努めてまいります。

また、大規模災害の発生により物流システムが寸断された場合、国民生活に甚大かつ広域的な影響が生じます。このため、県と物流関係団体との間で締結されている「災害時支援協定」がより実効的なものとなるよう推進してまいります。

結びにあたり、これから岐阜運輸支局の施策につきまして皆様のご理解とご協力をお願いいたしますとともに、本年が皆様にとりまして、輝かしい良き年となりますよう心から祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

「健全なクルマ社会の発展を目指して」

一般社団法人岐阜県自動車会議所会長　田口隆男

新年明けましておめでとうございます。

令和６年の輝かしい新年を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

平素は、岐阜県自動車会議所の事業活動に対しまして深いご理解とご支援を賜り、また、「ぎふけん自動車会議所だより」をご愛読賜りまして、誠にありがとうございます。

Ⅰ　昨年を振り返って

昨年を振り返ってみますと、年初から新型コロナウイルスオミクロン株が流行し、まん延防止等重点措置が発令されるスタートとなりました。その後２度の延長を経て３月に解除され、３年ぶりの行動制限がないゴールデンウイークを迎えたものの８月には第７波のピークを迎え、ウィズコロナの難しさを痛感させられました。10月からは全国旅行支援が開始され、併せて入国制限が大幅に緩和されたことで停滞していた日本経済も動きだしを見せるも、円安、資源の高騰などの影響による物価高で本格的な回復は見られませんでした。また、それに伴うコロナウイルス感染者の拡大やウクライナ情勢などが不安を残しました。そんな中、北京オリンピックでの日本人の活躍や、サッカーワールドカップでの強豪国撃破のベスト16が明るい話題となりました。

このような中、岐阜県内の自動車業界にもその影響は大きく、販売事業では、海外でのコロナウイルス拡大による半導体など部品生産が停止、受注はあるものの販売する車が無い状態が昨年から続き、その影響は中古車市場にも及びました。運送事業においては、経済活動の回復で物流・人流が増加し回復しつつあるものの、燃料費高騰や運転手不足が経営の足かせとなりました。整備事業においても、一定の法定需要はありましたが、人材確保の課題を残しました。

岐阜県下の交通事故状況を見てみますと、事故発生件数、負傷者数は着実に減少しておりますが、死者数に至っては前年比で大きく増加し、一昨年同様高齢者の死亡する事故が多いのが特徴でした。また、飲酒運転の事故が未だ根絶せず、増加していることが懸念されます。

自動車会議所の各事業につきましては、活動の制限を徐々に解除しながら進めて参りました。

交通安全対策事業では、各種イベントへ参加し感染対策をしながら広報活動を進めました。また、恒例となっている「交通安全祈願祭・自動車事故防止大会」を関係９団体の協賛のもと、規模を縮小し３年ぶりに執り行い、交通事故防止の誓いを新たにしました。

環境対策事業では、路線バスを活用した「エコドライブ」の推進、「アイドリングストップ」を訴えるラッピングバスの運行、タクシーを活用した「エコドライブ」、「交通マナーの向上」を訴えたマグネットシート装着で、広く広報活動を展開しました。

労働力確保の行動については、昨年同様セミナーの開催を見送り、自動車整備振興会主催の「クルマの児童画コンクール」に協賛し、未来の自動車関係業界を担う子供達にクルマに対する興味を醸成しました。

主要事業であるナンバー交付事業につきましては、半導体等の自動車部品の供給不足による自動車販売の落ち込みもあり、減収となりましたが、希望番号の選択率も向上し、加えて「全国版図柄ナンバー」や「大阪万博ナンバー」の交付で、収益の大半を占めております。その他、ＯＳＳの進展により印紙類販売は減少しましたが、車検予約、自賠責保険手数料が継続検査台数の増加により増収となっております。

また、窓口サービス等の向上を図るため、封印管理システム・車検予約システムの改修に着手し、処理のスピード化を図り、業務の効率化・正確化を進め、新年度稼働に向けて準備が整いました。

税制活動については、大きな行動はできませんでした。昨年末出された23年度税制大綱では、「エコカー減税」「環境性能割」を23年末まで据え置き、話題を呼びました「走行距離課税」「出力課税」は、新税構想に盛り込まず、検討事項として次のエコカー減税の期限到来までに検討を進めることとなり安心したところです。

Ⅱ　新年に向けて

昨年末のコロナウイルス感染者拡大、為替相場の影響、物価上昇等今後に不安はありますが、ウィズコロナの名の下、行動制限のない世の中となり、政府の各種施策も重なり経済の好転に期待したいところです。

自動車業界へ目を向けますと、販売事業では受注残を抱え、メーカーの生産調整も徐々に解消し登録台数も回復傾向を見せ始めました。一方、販売に影響を与える税制は、「エコカー減税」「環境性能割」を23年末まで据え置かれ、新税構想は盛り込まれなかったことから、販売の追い風になることを期待します。

今後、電動車の普及による新たな税制が議論されることとなるため、検討状況を注視し、複雑な自動車関係諸税の簡素化と負担軽減を求め、税制改革フォーラムの一員として声を上げてまいります。

運輸事業では、回復基調にあるものの厳しい環境が続くことが予想されます。トラック事業では、標準運賃や燃料サーチャージを適用できる交渉や運転手の確保や24年問題に向けた準備が必要となるでしょう。バス、タクシー事業においては、入国制限の緩和による訪日外国人の増加、全国旅行割りの再開などでの人流の回復が望まれるところですが、燃料費の高騰、運転手の確保等が鍵を握ることとなるでしょう。

自動車整備事業では、特定整備への対応が順調に進んでいます。併せて車検証の電子化に対応した取り組みを進めていく必要があります。今後、ＯＳＳを活用した業務の効率化が一層加速することでしょう。

このように、業界を取り巻く環境は非常に厳しいものがありますが、当会議所としては、関係行政機関、関係団体と連携を強化し、各事業を進めてまいります。

交通安全対策事業では、交通事故を１件でも減らすため、自動車関係団体が一丸となって進める「自動車事故防止大会」を開催します。また、交通環境の改善のため、「道路交通環境等改善懇談会」を規模を縮小し２月に開催を予定しており、運送業界各モードの運転者からの指摘・要望を、関係行政機関等へ投げ、道路の走行環境の改善に努めてまいります。

また、新たな手法を用いた啓発活動の実施を検討し、今まで取り組んできた自転車事故の防止、社会問題化している交通ルール違反の防止、横断歩道上での事故防止の啓発を引き続き進め、昨年多発した飲酒運転による事故防止など新たな取り組みを進めてまいります。

環境対策事業については、路線バス、タクシー車両を活用したラッピング、マグネットシート広告により啓発を進め、自治体の取り組みにも協力してまいります。

労働力確保対策については、行政、関係団体と連携しセミナーの開催など必要な取り組みを進めてまいります。

１月には、車検証の電子化、重量税納付のキャッシュレス化が始まり検査登録制度が大きく変わります。行政を含めた関係機関と連携し、混乱が生じないよう万全の体制を整えて業務に邁進いたします。

また、昨年検討してまいりました車検予約システム・封印管理システムの改修について、混乱が生じないよう移行手続きを進め、利用しやすい環境と確実でスピーディーな施封に努めてまいります。

主要事業であります　ナンバー交付事業については、希望番号の選択率向上を目指した広報に加え「全国版図柄ナンバー」「大阪万博ナンバー」の広報を行い、適切な交付に努めてまいります。

また、コロナ対策に万全を期し、窓口整備や職員教育を進めユーザー視点に立ったサービスの向上に努め、各事業を通じ健全なクルマ社会の発展を目指し取り組みを進めて参ります。

Ⅲ　終わりに

皆様のご理解とご支援を得て各課題に向け邁進していく所存でありますので、昨年にも増してご指導ご鞭撻をお願い申し上げますとともに、本年が皆様にとって幸多い年でありますことを祈念申し上げまして、新年のご挨拶といたします。

【岐阜県自動車会議所の取組み】

当所では、イベントや交通安全運動期間に啓発活動を実施しています。

今年は様々なイベントに参加し、引き続き感染症対策を行いながら活動を行いました。イベントでは、クイックアームによる反射神経テストや新たなグッズを配布し、家族連れなど多くの来場者に好評を得ています。また、今年は新たに７点を新規グッズに加え、岐阜県の企業で生産されている商品の充実を図りました。2024 年も交通安全・環境保全等の PR に努め、様々な機会を通じて活動を行ってまいります。

各務原市のツキオカフィルム製薬㈱のフィルム石鹸です。すぐに水に溶け泡立ちも良いです。防災、衛生面でも役立ちます。

安八町の浅野撚糸㈱のタオル『エアーかおる』です。特許取得の技術により吸水力は 1.5 倍と知名度も人気のある商品です。

美濃市にある㈱米長のあぶらとり紙です。美濃和紙を採用し吸収力が高い性質の商品となっています。

岐阜市にある国産薬品工業㈱の入浴剤『伊吹泉』です。生薬が配合され、ご家庭で薬草風呂が楽しめます。

東海学院大学が白川町他と共同開発したフレーバーグリーンティーです。美濃白川茶をベースに花やスパイスを調合し香り高い味わいになっています。

本巣市にある浪速製菓㈱のソフトキャンディです。主力のこんぶ飴を始め岐阜いちご飴もイベントにて好評です。

各務原市にある宮田製菓㈱のヤングドーナツです。駄菓子の定番でありロングセラー商品になっています。